

## 子宮頸がんの状況

子宮頸がんはHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が主な原因で、性交経験がある女性なら誰でも罹患する可能性のある病気です。

子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中で比較的多く、特に20歳代から30歳代の若年層で急激に増えています。

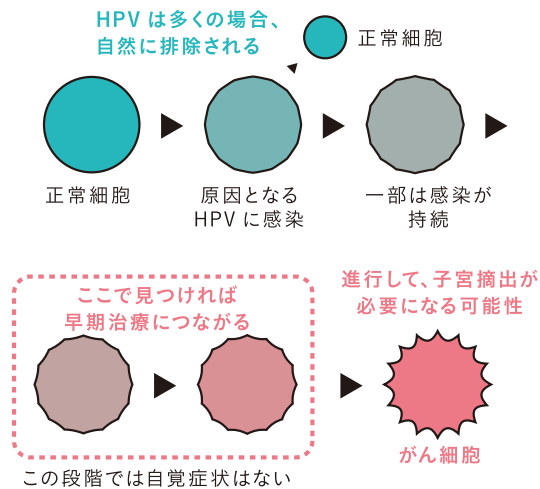
罹患数が多い部位(平成30年)【全国・女性】

	1位	2位	3位	4位	5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

国立研究開発法人がん研究センター  
がん対策情報センターより

### 《早期発見のためには、検診が効果的!》

子宮頸がんは、初期には症状がほとんどなく、自覚症状があらわれる頃には病状が進行していることが少なくありません。しかし、子宮頸がん検診を受けることで、がんになる前の正常でない細胞の段階で発見することも可能です。



「子宮頸がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい方は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センター  
がん情報サービス

[ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)



### ～個人情報の取り扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することができます。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和4年6月作成



これから受ける  
検査のこと

# 子宮頸がん検診 を受診される方へ

早期発見・早期治療で命を守る



## 子宮頸がん検診の有効性

津市が推奨する子宮頸がん検診（子宮頸部の細胞診）は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。

しかし、がんが見つげにくい場所にある場合などには、がん検診で発見できないことがあります。反対に、がんでなくても「要精検」と判定されることもあります。子宮頸がんは、前がん病変も見つけられるのですが、この中には放置しても治癒してしまうものも多くあります。結果的に、不必要な検査や治療を受け、出血などが起こることがあります。

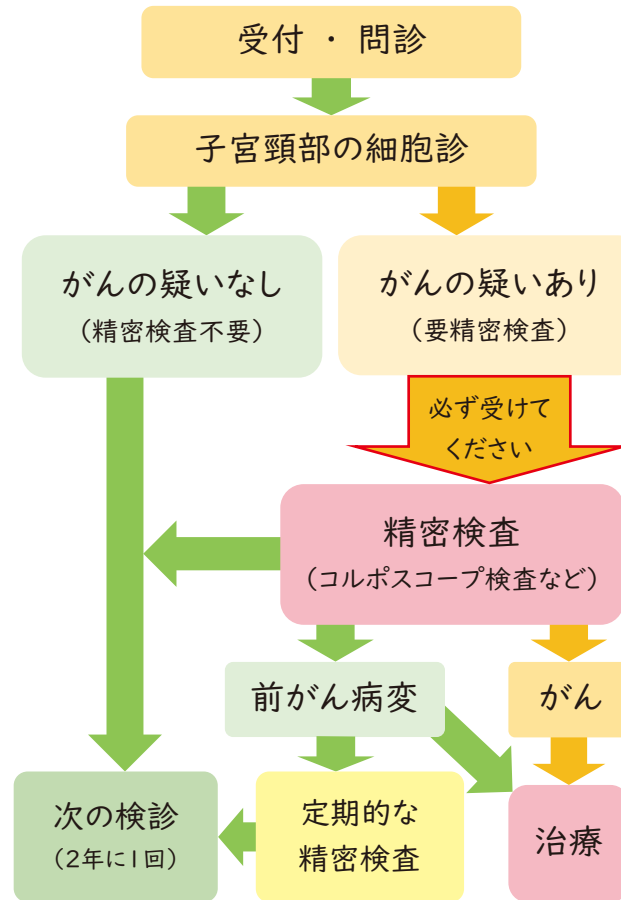
子宮頸がん検診は、低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

**20歳以上の女性は、2年に1度検診を受けることが大切です。**

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など気になる症状がある場合には、次の検診を待たずに婦人科を受診しましょう。

自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。

## 子宮頸がん検診の流れ



前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合や医療機関で定期的な経過観察になる場合もあります。

## 子宮頸部の細胞診

膣鏡を使用し子宮頸部（子宮の入り口）の状態を観察し、子宮頸がんの発生しやすい子宮頸部や膣部の表面粘膜を専用のブラシなどでこすって細胞を採取します。採った細胞に、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べます。

\*細胞診では、細胞採取専用のブラシなどを使用しますので、出血や痛みがあることがありますが、自然に止血します。  
\*月経（生理）中は避けて、検査を受けてください。



## 精密検査は必ず受けましょう！

検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

### 精密検査の方法

#### 《コルポスコープ検査》

細胞診で異常が発見されたら、コルポスコープ（膣拡大鏡）を使って、子宮頸部を詳しく見ます。

異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。



#### 《HPV検査》

細胞診の結果によっては、HPV検査（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べます）を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。